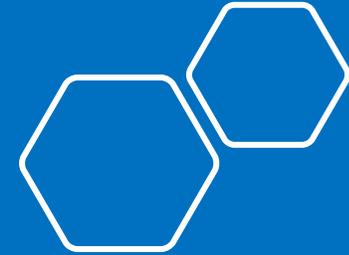


**NDC**

# 個人投資家向けIRセミナー

日本ドライケミカル株式会社（証券コード：1909）  
代表取締役社長 亀井正文



**70**  
th  
ANNIVERSARY



2025  
健康経営優良法人  
KENKO Investment for Health  
大規模法人部門



日本ドライケミカルは2025年4月23日に**創立70周年**を迎えました。  
皆さまの長年にわたるご支援に心より感謝いたします。



## 中期経営計画『変革と成長2030』を策定

NDCビジョン2035とする10年の長期ビジョンと、変革による成長を目指すための最初の5カ年に関する計画を策定しました。  
持続的な成長を実現することで企業価値向上を目指します。

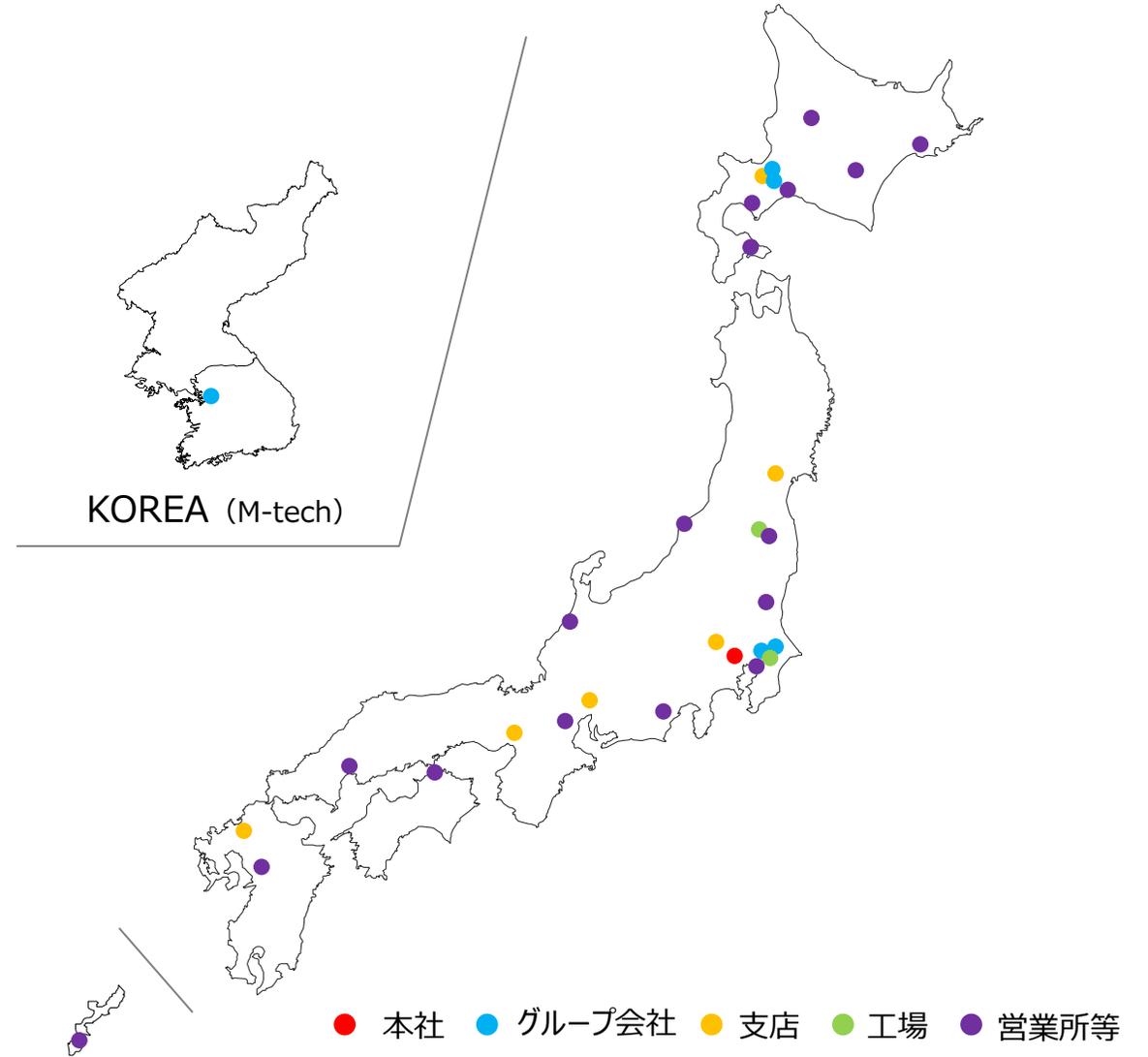
# 目次

Agenda

- 01 企業概要
- 02 先端防災ソリューション
- 03 中期経営計画『変革と成長2030』
  - 配当情報
  - 株主優待制度

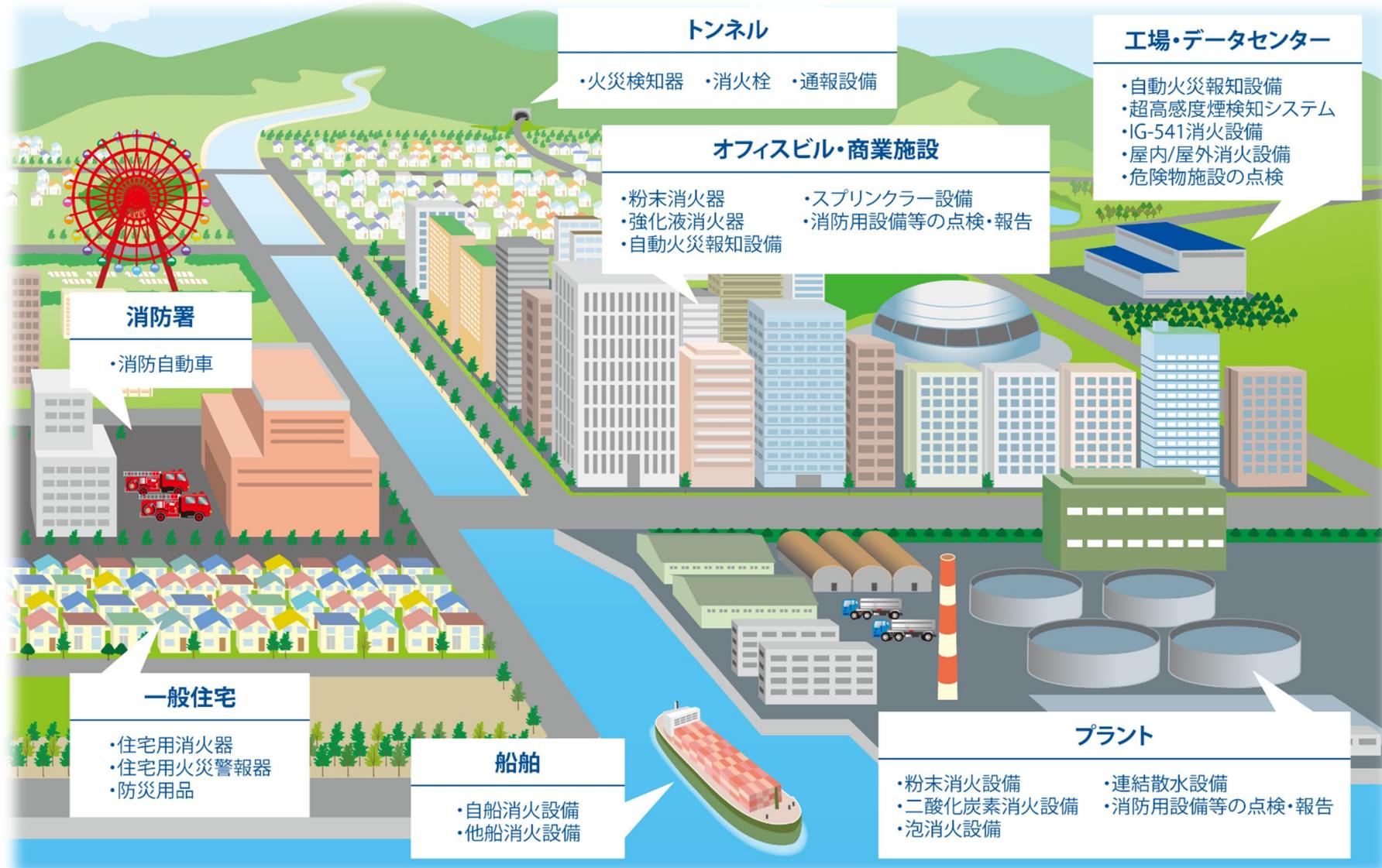
# 01 企業概要

商号	日本ドライケミカル株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場 (証券コード：1909)
創業	1955年4月
所在地	東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー
代表者	代表取締役社長 亀井正文
従業員数	連結1,157名 (2025年3月末)
資本金	700百万円
連結売上高	55,727百万円 (2025年3月期)
グループ会社	北海道ドライケミカル(株)、広伸プラント工業(株) 日本ドライメンテナンス(株)、M-tech(株)、 (株)イナートガスセンター



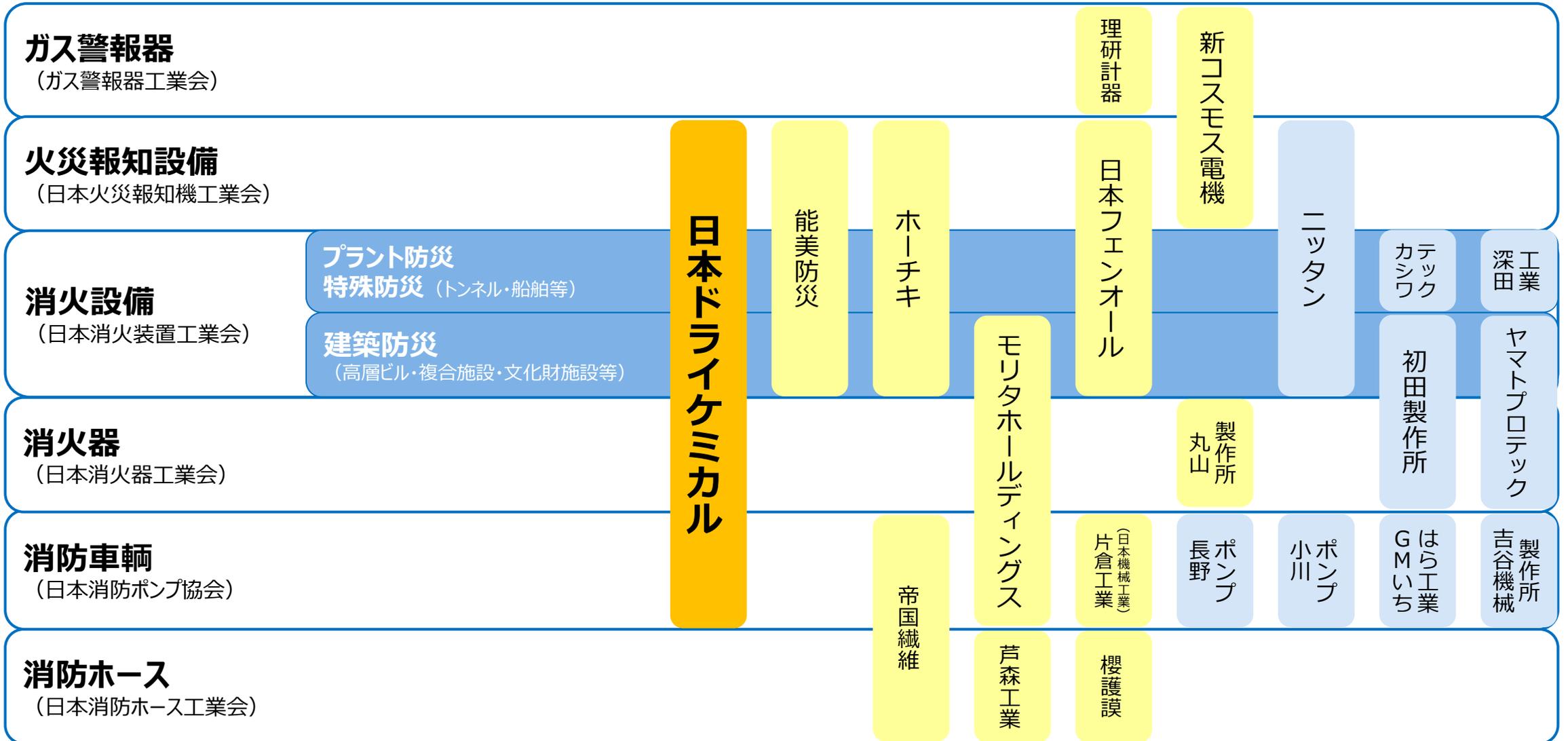
出所：株式会社平凡社地図出版 / ROOTS製作委員会

日本ドライケミカルは、さまざまなフィールドに安心と安全を提供する総合防災企業です。

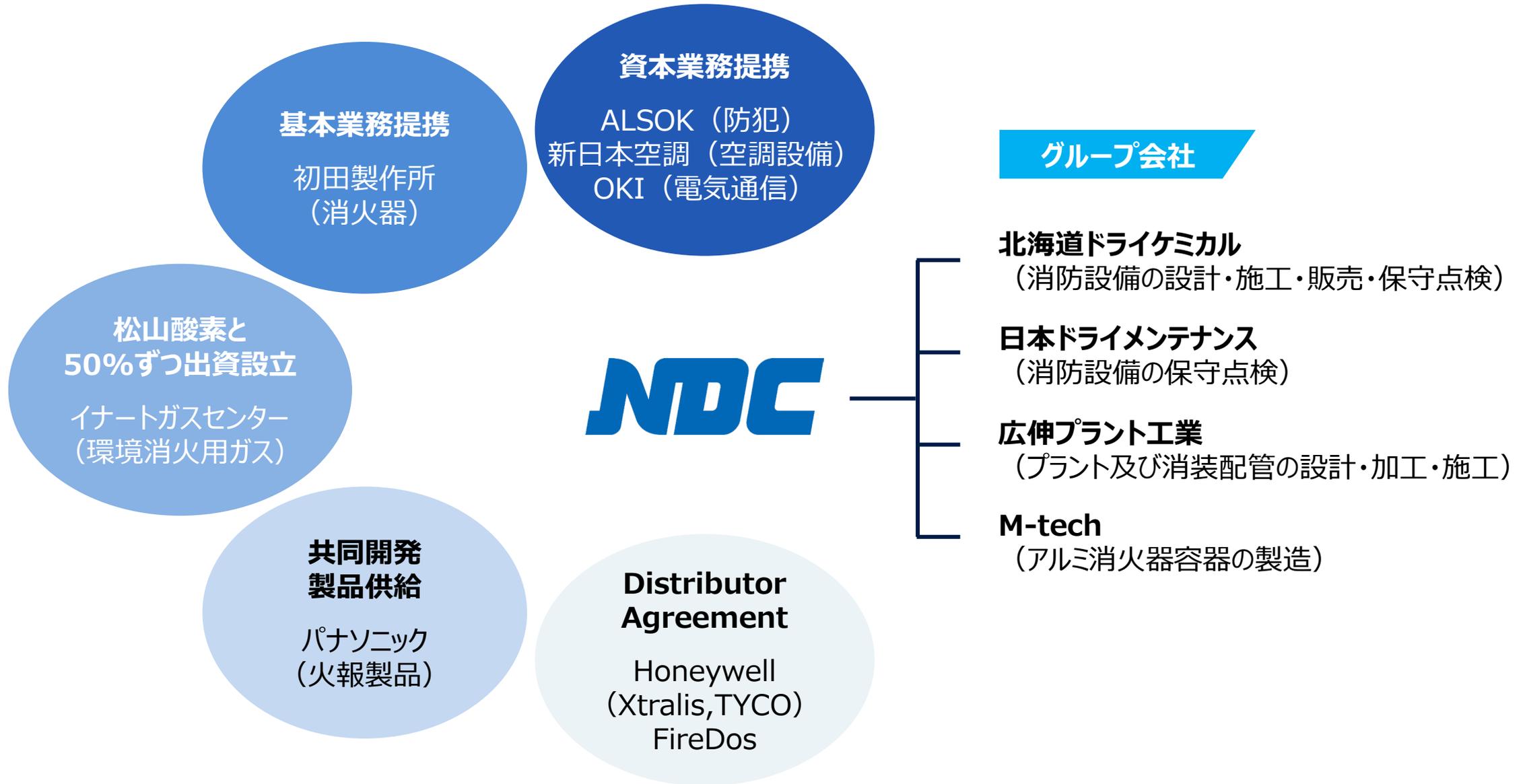


# 事業別の競合他社

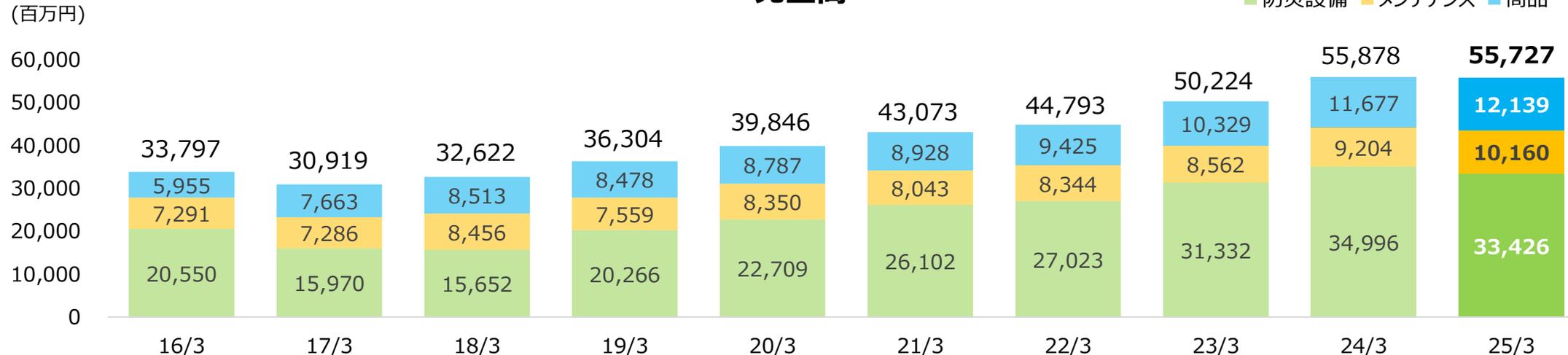
上場企業 非上場企業



1955年4月	粉末消火器、粉末消火設備および自動火災報知設備の製造・販売を主業として設立
1991年9月	東証二部へ上場
1995年6月	東証一部へ上場
2000年12月	米国の総合セキュリティ・防災メーカー「タイコインターナショナル社」のTOBにより100%子会社化、上場廃止
2010年3月	株式上場を視野に取引先を中心に資本政策を実施
2011年6月	東証二部へ再上場
2012年5月	戦略的パートナーとして(株)初田製作所と基本業務提携契約を締結
2012年8月	(株)イナートガスセンターを設立
2012年10月	沖電気防災(株)を子会社化（パナソニックから60%取得）
2013年2月	新日本空調(株)と資本業務提携契約を締結
2013年12月	東証一部へ上場
2014年8月	OKIと資本業務提携契約を締結、福島市と立地基本協定を締結
2014年10月	沖電気防災(株)（現ヒューセック）を完全子会社化（OKIから40%取得）
2016年2月	ALSOKと資本業務提携契約を締結
2016年5月	福島市福島工場団地内に福島工場を新設、稼働
2016年7月	(株)総合防災を子会社化
2016年10月	(株)ヒューセックを吸収合併
2017年11月	(株)始興金属を子会社化（現M-tech）
2018年11月	広伸プラント工業(株)を子会社化
2022年4月	東証スタンダード市場
2024年8月	(株)総合防災を北海道ドライケミカル(株)へ吸収合併



## 売上高



## 営業利益・親会社株主帰属当期純利益



当社グループは、防災設備事業、メンテナンス事業、商品事業の3事業を通じた防災ソリューションを提供しています。オフィスビルや商業施設等の一般的な建築物だけでなく、プラント、船舶、トンネル、消防・特殊車両など幅広く事業を展開しています。

## 防災設備事業

建築防災設備

プラント防災設備

船舶防災設備

消防・特殊車両



多様な建築物に  
防災設備を設計・施工

## メンテナンス事業

売上構成比  
**18.2%**  
101億円  
(2025年3月期)

防災設備の保守点検  
修繕・改修工事

## 商品事業

売上構成比  
**21.8%**  
121億円  
(2025年3月期)

消防用機器の製造・販売  
小規模な防災設備の修繕・改修工事



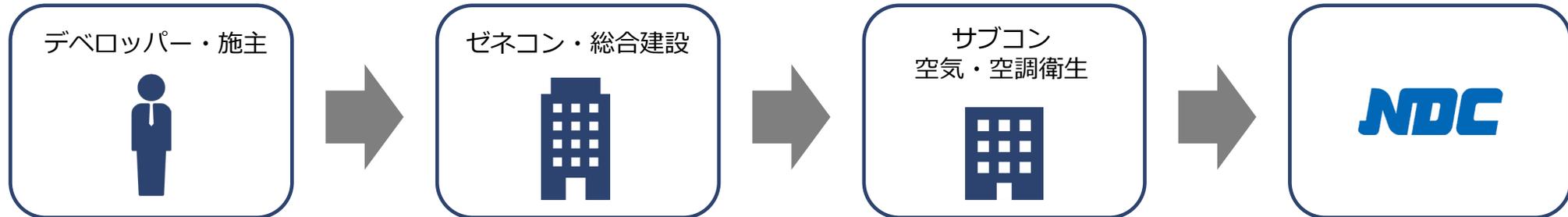
高層オフィスビルからトンネルまで、建物にあわせて各種消火設備の設計・施工を行います。売上高の半分以上を占める当社の主力事業です。

## 建築防災設備

高層オフィスビルや半導体工場、データセンターなど、建物にあわせた最新の防災システムを提供します。

自動火災報知設備、スプリンクラー設備、泡消火設備、不活性ガス消火システム、二酸化炭素消火設備、ハロン1301消火設備、粉末消火設備、連結散水設備、屋外/屋内消火栓設備、移動式消火設備、放水型スプリンクラー設備、連結送水管

## 商流



高層オフィスビル



データセンター

首都圏を中心とした再開発による高層オフィスビルや大型複合施設に多くの施工実績があり、サブコンからの高い信頼を築いています。

01 高い施工管理技術

02 豊富な協力業者

## プラント防災設備

危険物施設の「安心・安全」を守る、高い技術力による防災ソリューションを提供します。

### 商流



### 対象物の特殊性・危険性から厳しい品質要求に対応



危険物施設



火力発電所



石油化学コンビナート

## 特殊防災設備

高い技術力により、経済活動を支える重要な社会インフラの「安全・安心」を守ります。

### 船舶防災設備

孤立無援の海上火災に備えた、迅速確実な船舶防災システムを提案します。

自船消火設備：炭酸ガス消火装置、粉末消火装置  
他船消火設備：空気泡消火装置、粉末消火装置



大型タンカー



フェリー



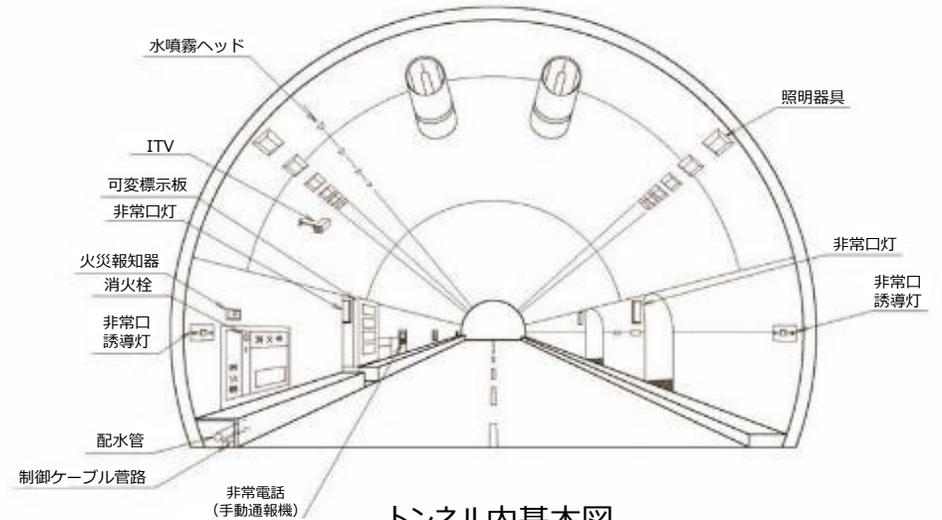
貨物船



コンテナ船

### トンネル防災システム

火災検知器、通報設備及び消火栓を適正に配置、スムーズな避難誘導と消火活動につなげます。

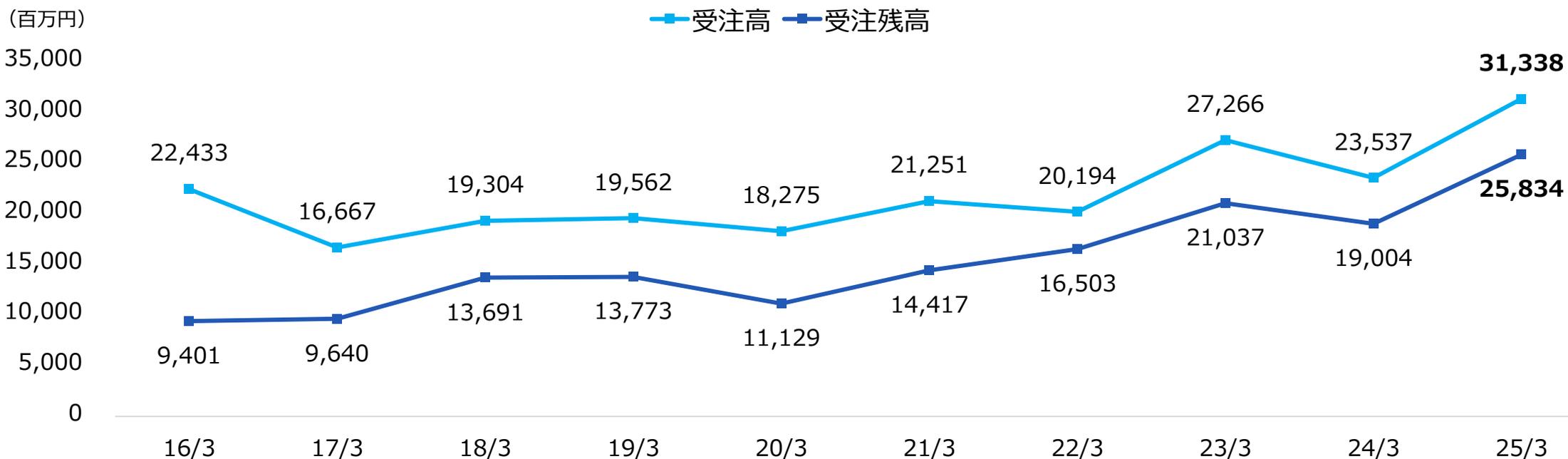


トンネル内基本図

## 受注高・受注残高の推移

単位：百万円	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3
受注高	22,433	16,667	19,304	19,562	18,275	21,251	20,194	27,266	23,537	<b>31,338</b>
受注残高	9,401	9,640	13,691	13,773	11,129	14,417	16,503	21,037	19,004	<b>25,834</b>

※メンテナンス事業は受注と販売がほぼ同時期に成立するため、また、商品事業は見込み生産を行っているため、受注状況を記載しておりません。



## 消防自動車

専門的なニーズに、最新の技術で応えます。消防車には火を消す技術の最先端を結集しています。

### NDCの特長

**01** 各地域の特性に最適化した車両（高機能＝専用設計）を提案

**02** 標準化戦略とは異なる市場でのポジションを確立

### 製造風景



### 業界の市場規模

年度	取換需要（台）
2018年度	1,171
2019年度	1,135
2020年度	1,101
2021年度	945
2022年度	819
2023年度	761
2024年度	1,004

出典：日本消防ポンプ協会「年度別受託個別試験依頼取扱台数」

### 単年度の主な流れ

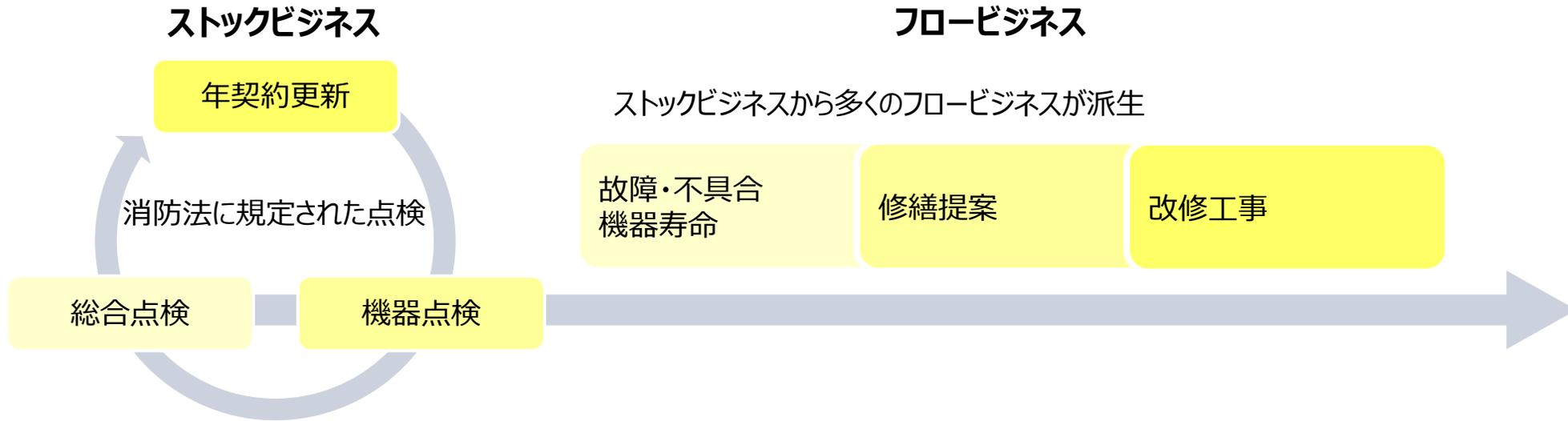
4/1～年度開始

～3/31年度末





非常時に防災設備・機器が確実に作動するために、消防法に規定された定期点検の実施や、補修・増設、設備のリニューアルによる改修工事等を行います。



消防用設備等は、有資格者による定期点検の実施と、その点検結果の報告が義務付けられています。

### ■ 点検の義務および資格

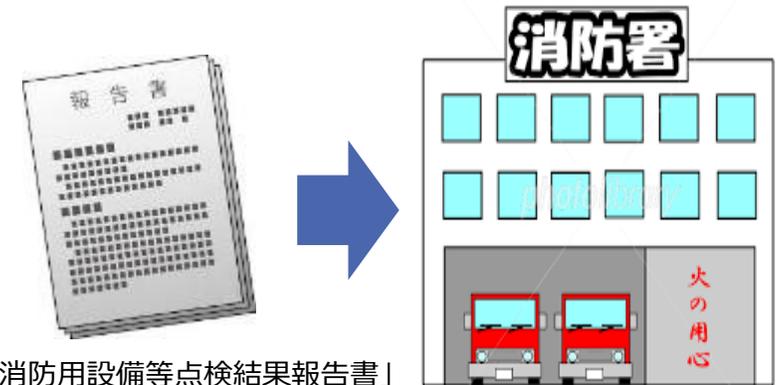
消防設備等は、消防設備士または消防設備点検資格者による点検を義務付けられている。

### ■ 点検の内容および点検の期間

①機器点検：6ヶ月毎 ②総合点検：1年毎

### ■ 点検結果の報告

点検の結果は、定型の報告書で消防長または消防署長に報告しなければならない。



# 営業種目別事業概要 商品



各種消火器の製造・販売をはじめ、あらゆる防災用品の仕入・販売を行います。

## 消火器

日本初のアルミニウム消火器を開発したパイオニアです。

### アルミニウムの特長

地球環境に配慮し、従来型に比べて20%も軽く、女性や高齢者の方にも使用しやすい消火器です。



軽い



耐食性が強い



リサイクルが容易

### 高性能型消火器

火災時に誰もがより消火しやすいことを目的に、消火能力を著しく向上させた消火器です。



通常タイプ



高性能型

### 代理店ビジネス



## 自動火災報知設備

受信機、感知器、警報器などの各種機器を取り揃え、建物の規模やニーズに対応した最適な製品を提供しています。

自火報  
市場シェアUP

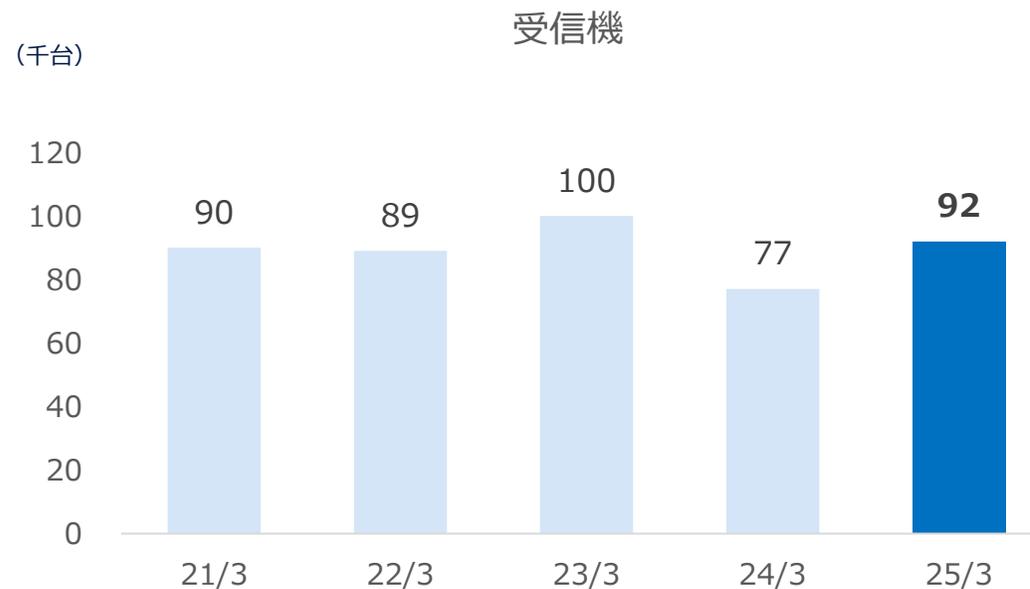
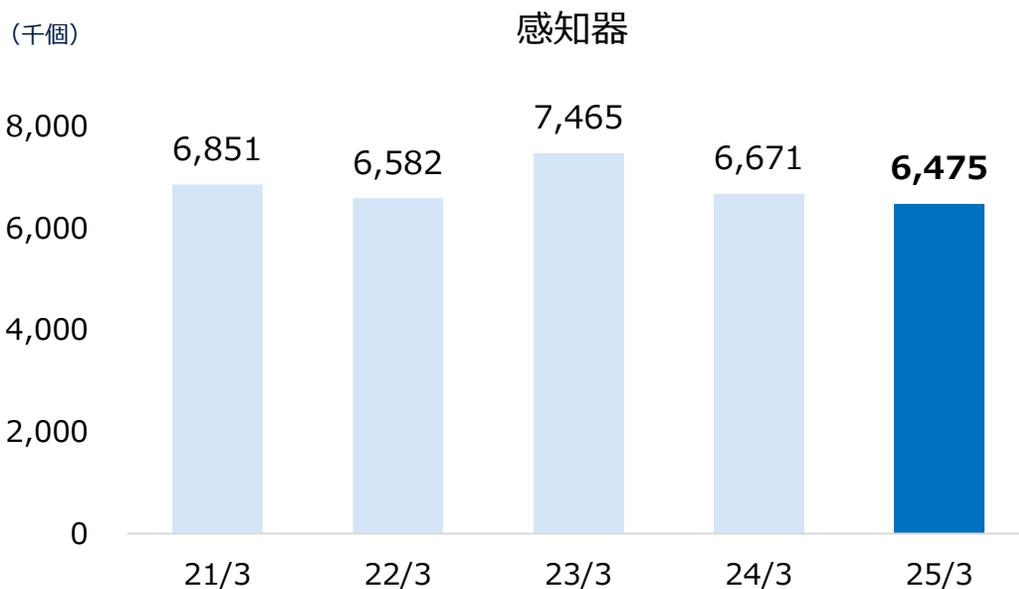


消火装置  
ビジネス機会UP

自火報・消火の両輪を回して市場シェア拡大を目指します



## 業界の規模（検定数）



## 02 先端防災ソリューション

従来の消防機器、防災設備ではカバーしきれない次世代の防災を創造。当社独自の製品で世の中の安心・安全を守ります。

## 予防防災



### 予防

火災の予兆を察知。  
火をおこさない、おこさせない。

## 従来の消防防災



### 感知・通報

火災を感知し、知らせる。



### 消火

水・泡・ガス・粉末などの  
薬剤で消火する。



### 避難

火災から避難する。

## 超高感度煙検知システム VESDA

- 01 火災が発生する前の微量な煙を早期に検知
- 02 初期対処として熱源の供給を遮断し、被害を最小限に抑えることで**お客様の財産**を守る

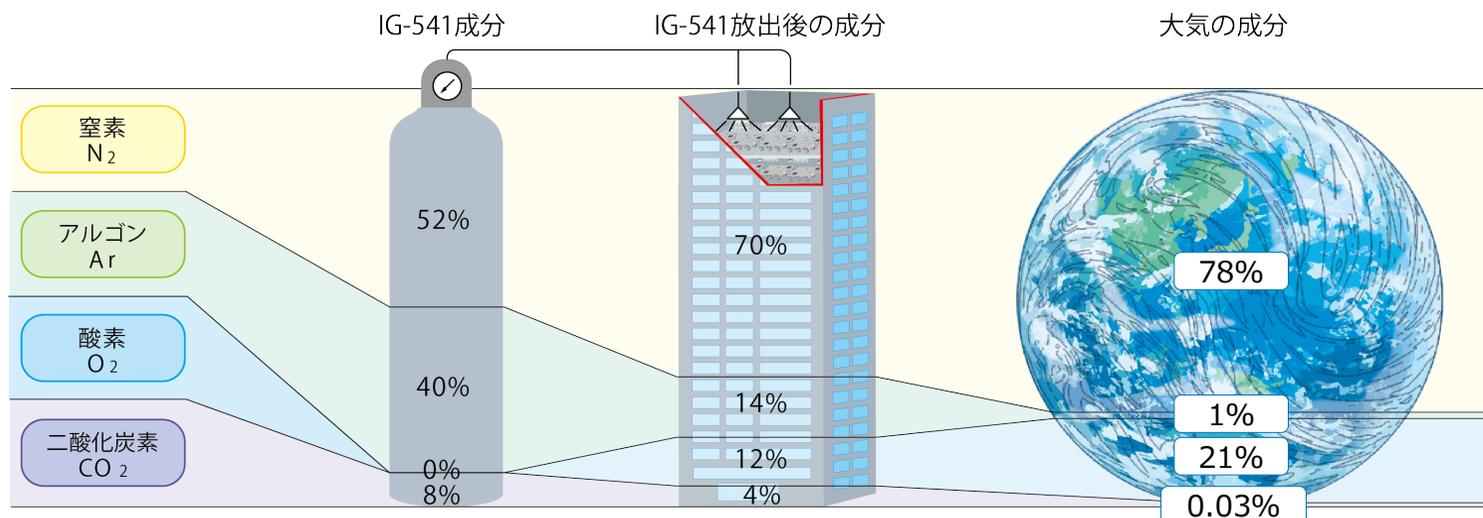
Honeywell

VESDA<sup>®</sup>  
by xtralis



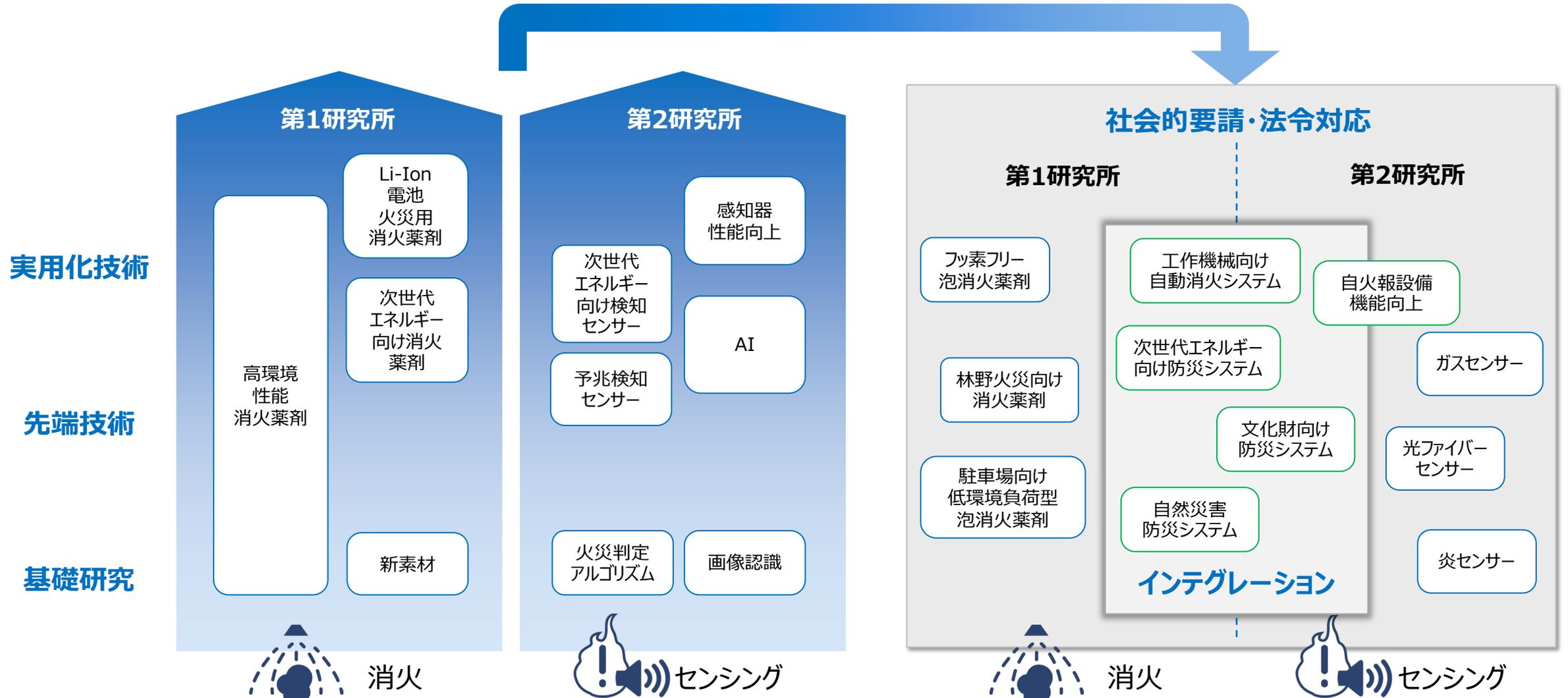
## IG-541消火システム

- 01 大気組成成分である**窒素52%、アルゴン40%、二酸化炭素8%**の混合ガス
- 02 室内の酸素濃度を約12%~13%に下げて消火するが、CO<sub>2</sub>による呼吸促進効果により人は安全に過ごせる
- 03 ガスは大気に存在する自然の成分を使用しているため環境にやさしい



# 研究開発ロードマップ概念図

基礎研究および先進技術から実用化技術を蒸留し、社会的要請および法令に対応した製品やシステムの開発を行っております。消火防災のコア技術であるセンシング（検知）と消火を融合し、新たなソリューションを引き続き提供していきます。



## 有機フッ素化合物の規制による影響

欧州ではPFHxAの規制が決定（2026年4月10日開始）

世界的フッ素メーカーが生産終了を発表

ほとんどすべての水成膜泡・  
フッ素たん白泡は、  
ケマーズのフッ素を原料としている

## 01 既設設備の現状と課題

ほとんどの駐車場にはフッ素（PFOSやPFOA等）を含有している水成膜泡消火薬剤が設置されている。

## 02 開発目標

既設駐車場泡消火設備をPFOS・PFOAのほか、規制可能性のあるPFAS等も含め、完全フッ素フリーにする。  
既設の水成膜泡と同等の消火性能を追求し、交換するだけで新消火システムへ変更可能な新泡消火薬剤。



# 環境にやさしいフッ素フリーA火災用添加剤 GreenWet

建物火災や森林火災の消火活動には主に水が使用されていますが、水は表面張力が高いため可燃物から流れ落ちやすく、大量の水が必要となります。本製品は水に混ぜることで表面張力を低下させ、燃焼物への浸透性を飛躍的に向上させることにより、消火に必要な水量を削減しつつ、優れた消火性能を実現します。

## GreenWetの特長

### 01 水質汚濁防止法の一般排水基準をクリア

水質汚濁防止法の一般排水基準を全項目で基準値未満とし、使用後の水溶液が河川や海に流れ込んでも著しい環境影響を及ぼさない成分を使用

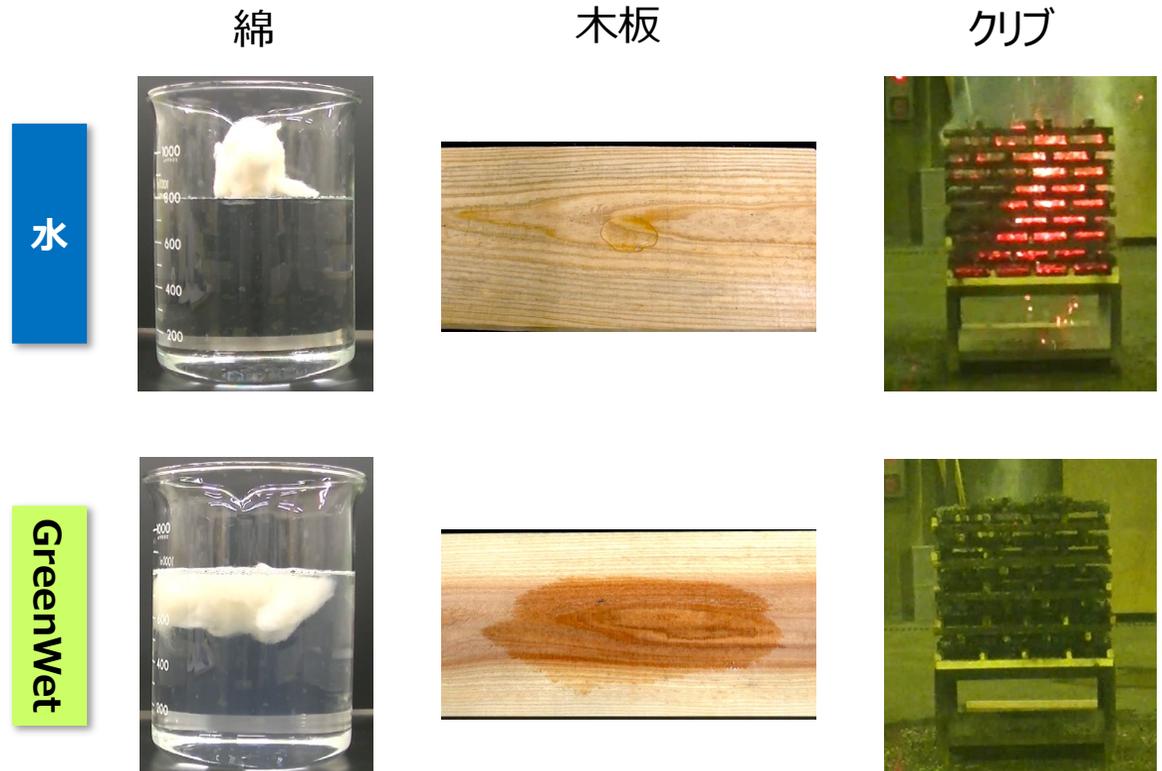
### 02 環境にやさしいフッ素フリー

PFOS・PFOA・PFHxSなどの有機フッ素化合物を一切含まない環境配慮型A火災用添加剤

### 03 優れた浸透性と濡れ性による高い消火性能

木材への消火性能は水に比べて4倍。紙や綿には優れた浸透性、ゴムやプラスチックには高い濡れ性を発揮し、さまざまな素材に対して優れた消火性能を実現。

## 浸透性の比較



# 03 中期経営計画『変革と成長2030』

- 配当情報
- 株主優待制度

創立70周年を機に、新たに企業理念としてパーパスとミッションを制定しました。

## PURPOSE パーパス

**創ろう ゆたかで安心な未来を テクノロジーで**  
Generate Future with the Next Technology

## MISSION ミッション

### テクノロジー

社会の変化に適応した新しい発想とテクノロジーで消火・防災を科学し、防災の未来をエンジニアリング力で創っていきます

### 安心・安全

消火・防災のプロフェッショナルとして、ステークホルダーの皆様とともに社会に安心と安全を提供し続けていきます

### 人財育成

ゆたかで安心な未来の実現に向けて、次世代の消火・防災へつなぐ自律型人財の育成に情熱を持って取り組んでいきます

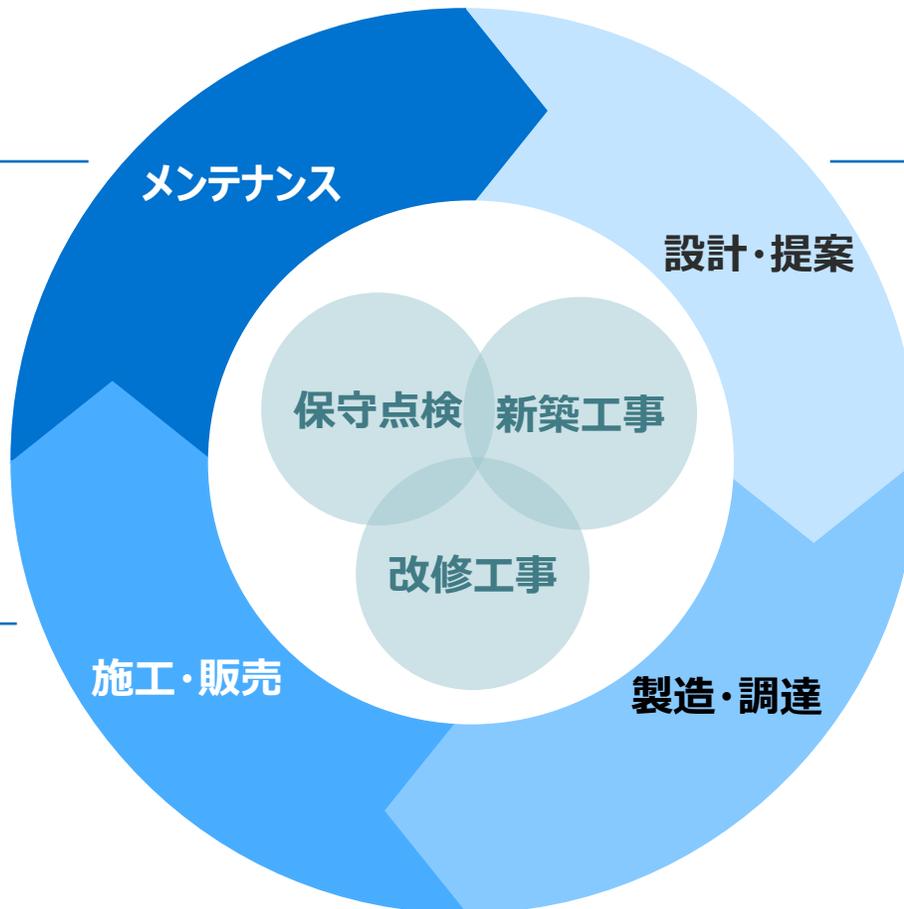
防災設備の新築工事・保守点検・改修工事の一連のサイクルで事業機会を得られるビジネスモデルを構築しており、当社グループの強みである高度なエンジニアリング、メーカーとしての開発力、顧客からの高い信頼等を更に伸ばす取組みを継続的に行っています。

## 災害発生時の確実な作動

- 法定点検の実施
- 部品・機器交換等の保守
- 小規模工事の対応
- 改修工事の提案

## 顧客からの高い信頼

- 長年の施工・販売・保守実績
- 全国規模での迅速な対応力
- 優秀な人財、協力会社ネットワーク



## 高度なエンジニアリング

- デザインイン、技術提案力
- 消火薬剤・消火設備に関する豊富なノウハウ、経験
- 先進的な火災予防（超高感度煙検知システム）

## メーカーとしての開発力

- 物件に合わせた設計による最適な防災設備の提供
- 消火器、自火報、消防車等の幅広い自社製品を開発・製造
- 不活性ガス（IG-541）の取扱い

Phase1 2026年3月期-2030年3月期

Phase2 2031年3月期-2035年3月期

## 持続的成長を実現する経営基盤

- ・ ビジネスモデルの強靱化
- ・ 次世代情報システム構築・DX推進
- ・ 資本コストを意識した経営

## 高付加価値・成長領域への拡大

- ・ 人的資本・テクノロジーへの投資
- ・ 魅力ある工場・製品開発の強化
- ・ 火災予防など先端防災分野の開拓

## 安心・安全な未来の実現

- ・ 環境に配慮した防災ソリューション
- ・ ステークホルダーからの高い信頼
- ・ 世界のサプライチェーンを守る

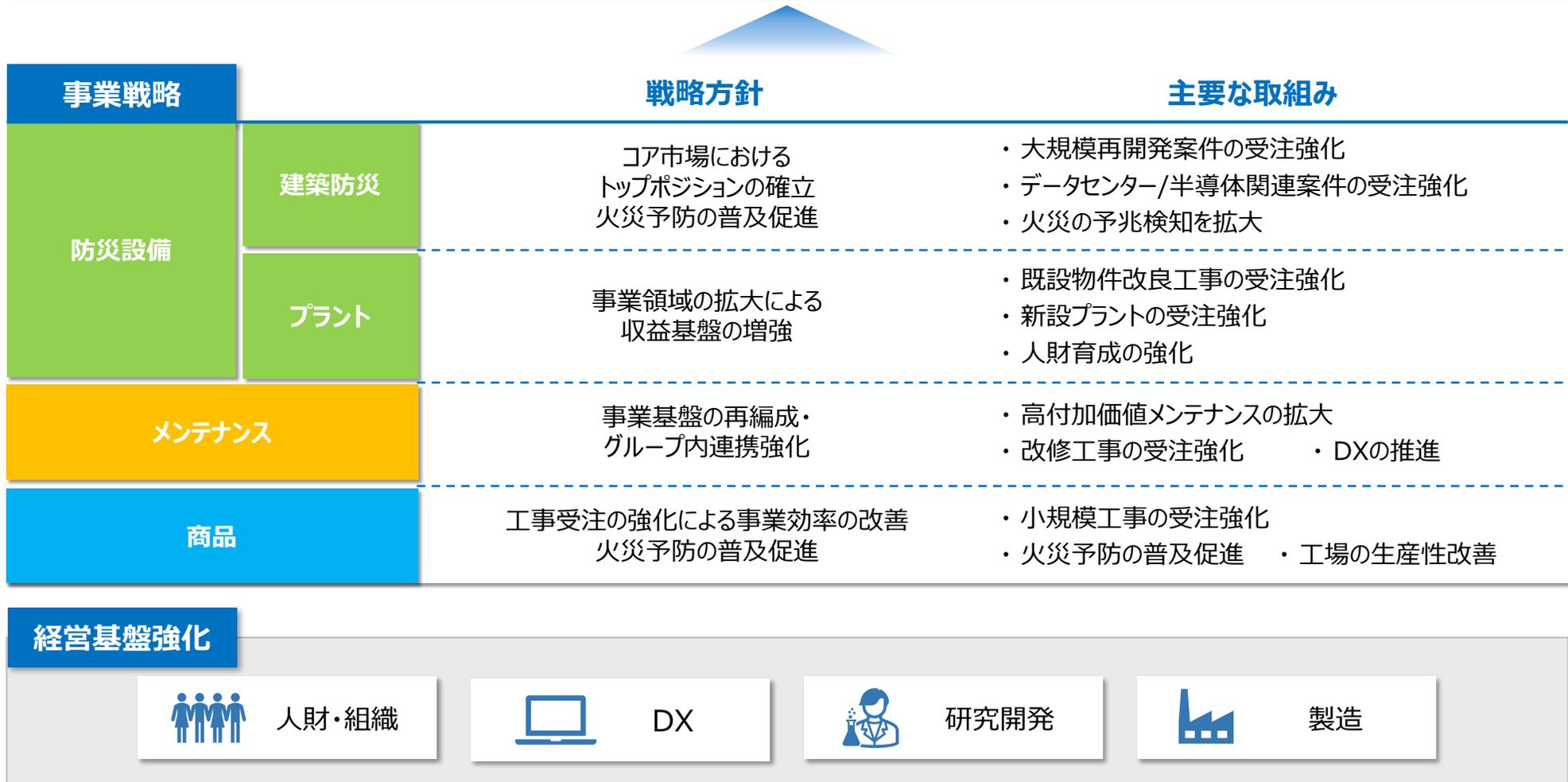
ROE  
12%以上維持

事業ドメイン  
総合防災  
+  
先端防災

時価総額  
1,000億円  
(2035年3月期)

## 中期経営方針

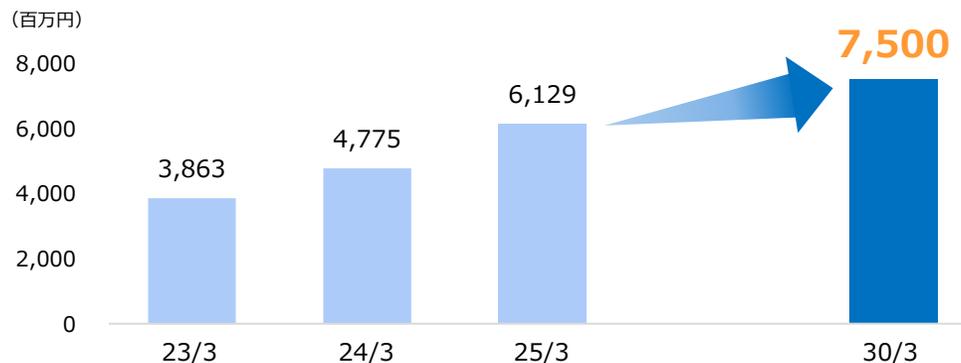
持続的成長を実現する経営基盤の強化と高付加価値・成長領域への拡大



今回の中期経営計画では資本コストを意識した経営及び持続的な企業価値の向上を実現するために3つの指標で目標値を設定し、推進していきます。

## 事業利益\*

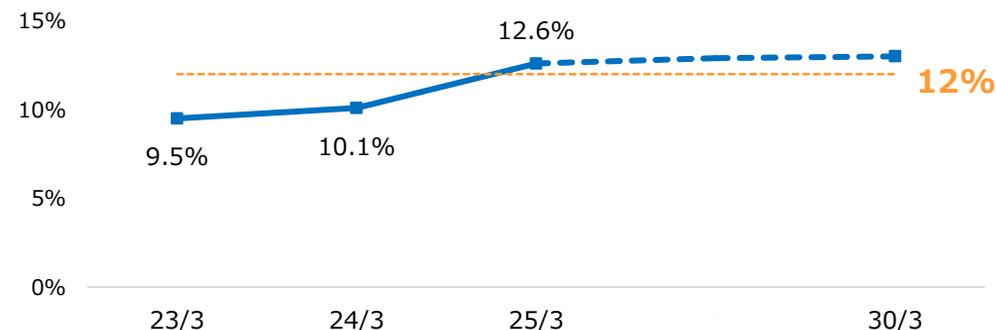
75億円



\*事業利益の定義：営業利益+持分法投資損益

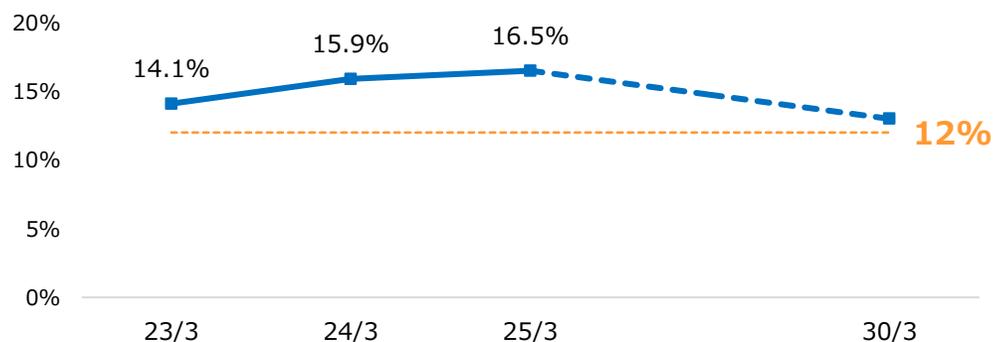
## EBITDAマージン

12%以上



## ROE

12%以上の維持



## (参考値) 純資産・自己資本比率

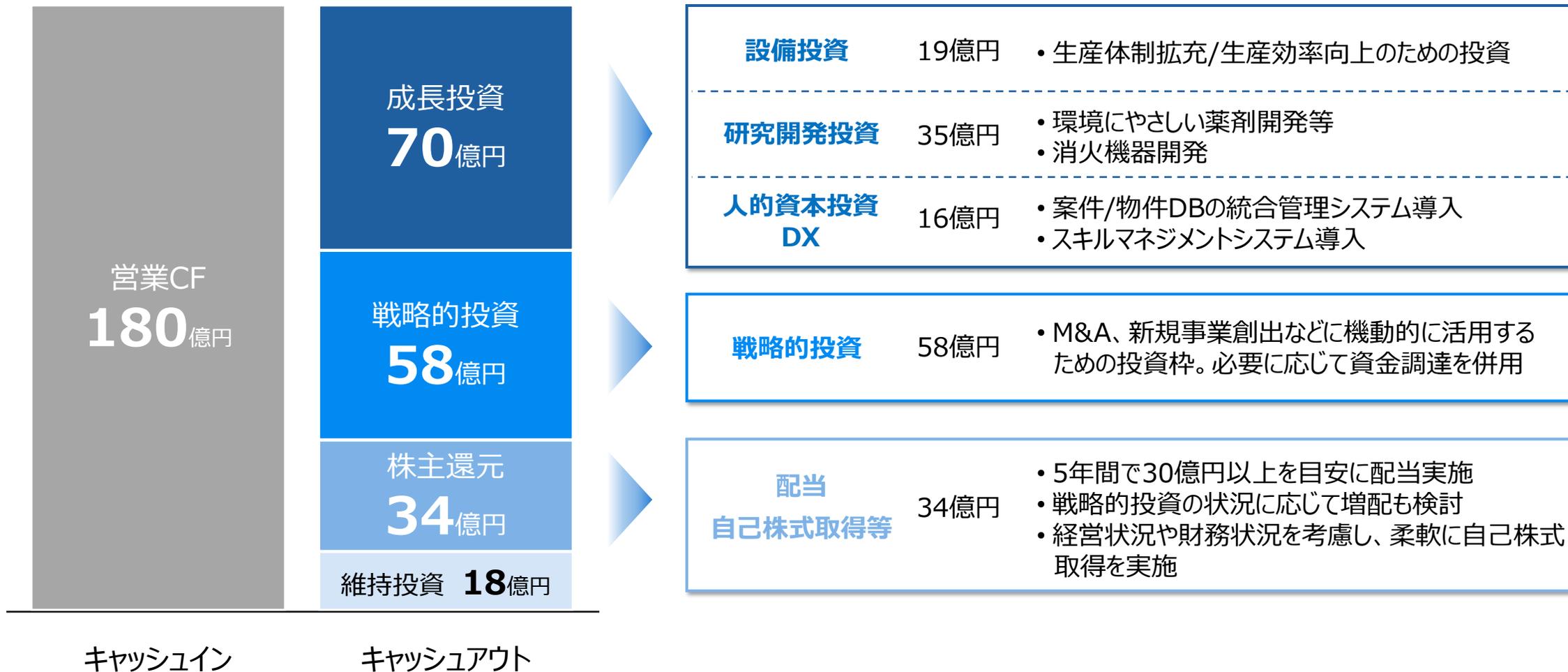
■ 純資産 ■ 自己資本比率



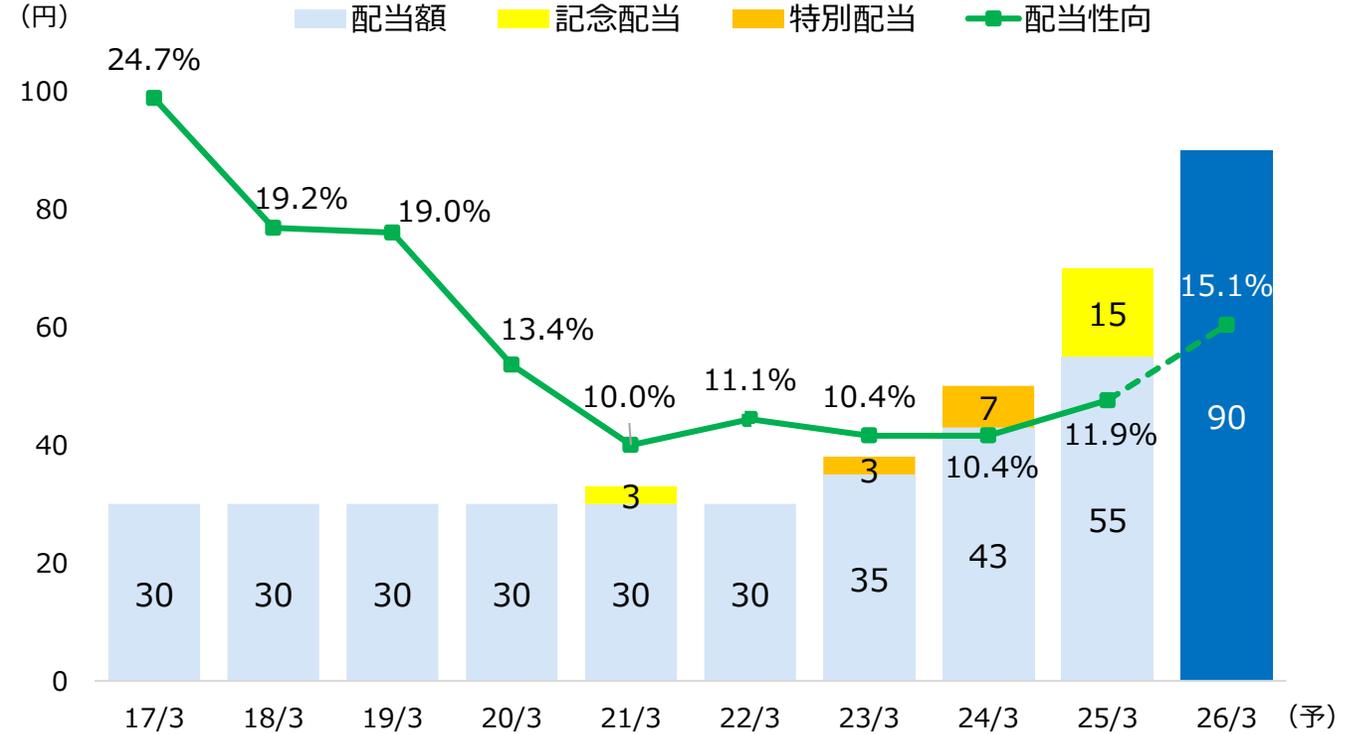
# キャッシュアロケーション

成長投資と株主還元の適正なバランスを図り、戦略的投資枠を設けることでM&Aなどにも機動的に対応できるようにします。

## 中計期間（2026年3月期-2030年3月期） 累計



	24/3	25/3	26/3予想
年間配当金	中間	15.0	35.0
	期末	28.0	55.0
	特別配当	7.0	—
	記念配当	—	15.0
	合計	50.0	70.0
配当性向	10.4%	11.9%	15.1%



## 配当政策に関する基本方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと認識しており、持続的な成長に向けて、将来への事業投資や経営環境の変化に備えた事業推進をするとともに、経営基盤の強化を図りつつ、安定した株主配当を継続して実施することを配当政策の基本方針としております。

# 株主優待制度

より多くの方々に中長期的に当社株式を保有いただくことを目的に、株主優待制度を実施しております。  
 また、株主の皆様にお選びいただく防災用品（優待品目）をより充実させるため、毎年品目を一部入れ替えております。

対象：9月30日現在の株主名簿に記載された1単元（100株）以上を保有されている株主様

・100株以上300株未満保有の株主様…… 1品目選択      ・300株以上保有の株主様…… 2品目選択（同じ品目を選択いただくことも可能）

## 【参考】2024年度の品目

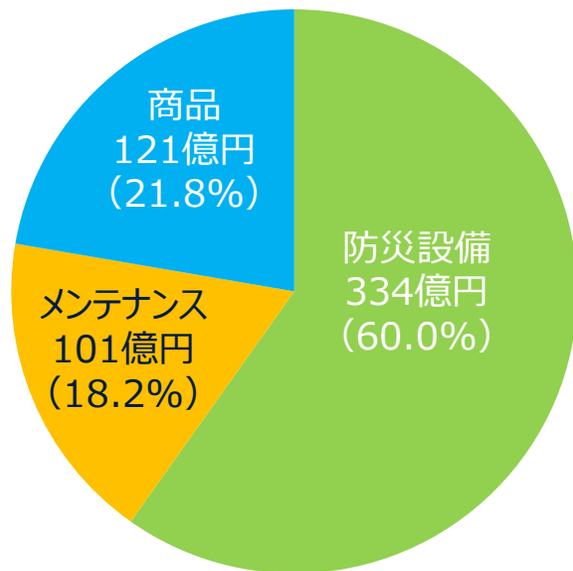
<p>①保存食5年サポートセットⅡ</p> 	<p>②オリジナル缶deポローニャ</p> 	<p>③玄米リゾットギフトセット</p> 	<p>④非常食ギフトセット</p> 	<p>⑤にんべんだしがゆ アレルギー対応セット</p> 
<p>⑥マイレットmini-10</p> 	<p>⑦ロゴス マルチツール14</p> 	<p>⑧ LEDランタンライト</p> 	<p>⑨脱出ツール</p> 	<p>⑩ヘルメット148型</p> 
<p>⑪長期保存食セット1日分</p> 	<p>⑫転倒防止タックフィット</p> 	<p>⑬乾電池式スマホ充電器</p> 	<p>⑭QUOカード(1,000円分)</p> 	<p>⑭国内災害義援金(1,000円分)</p> 

## ご清聴ありがとうございます

本資料には当社の経営戦略などが記載されています。

これらの将来の見通しに関する記述は、現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定を必ず保証するものではありません。

# 参考資料



売上高55,727百万円



### 防災設備

自火報、消火設備の設計・施工、消防自動車の製造・販売



### メンテナンス

防災設備の保守点検・改修



### 商品

消火器の製造・販売、防災用品の仕入・販売

単位：百万円	24/3	25/3	増減額
売上高	55,878	<b>55,727</b>	△151
売上総利益	12,983	<b>14,814</b>	1,831
営業利益	4,775	<b>6,128</b>	1,353
経常利益	5,180	<b>5,817</b>	636
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,287	<b>3,958</b>	670
	24/3	25/3	増減額
<b>資産の部</b>			
流動資産	41,426	<b>34,771</b>	△6,654
固定資産	12,602	<b>16,167</b>	3,564
<b>資産合計</b>	54,029	<b>50,939</b>	△3,089
<b>負債の部</b>			
流動負債	22,414	<b>17,105</b>	△5,308
固定負債	4,566	<b>3,315</b>	△1,250
<b>負債合計</b>	26,981	<b>20,421</b>	△6,559
<b>純資産の部</b>			
<b>純資産合計</b>	27,048	<b>30,517</b>	3,468
<b>負債純資産合計</b>	54,029	<b>50,939</b>	△3,089

# 2025年3月期 営業種目別業績

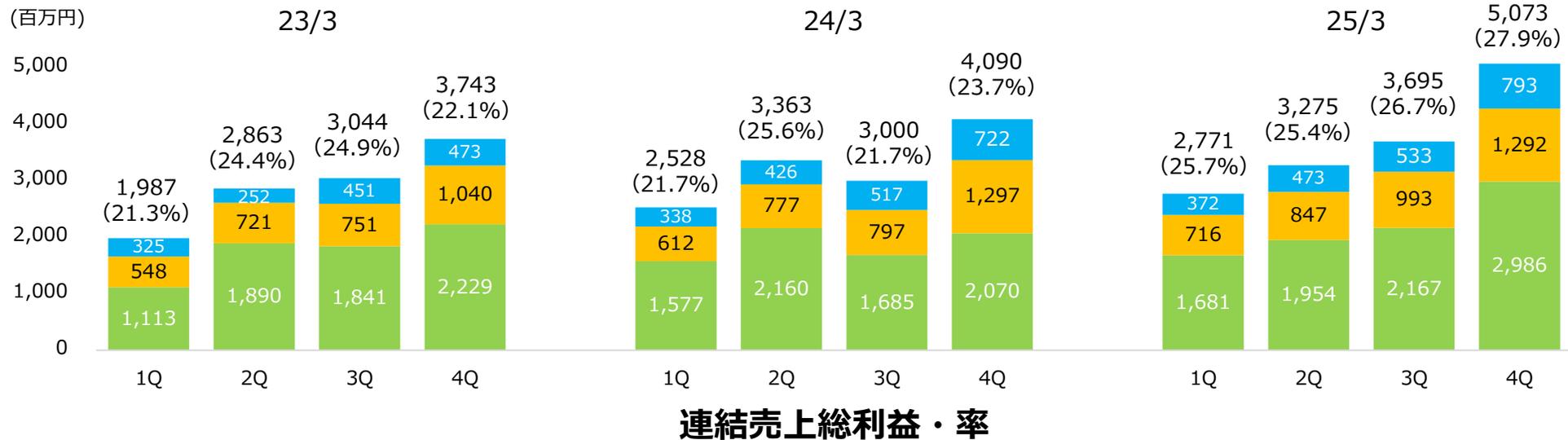
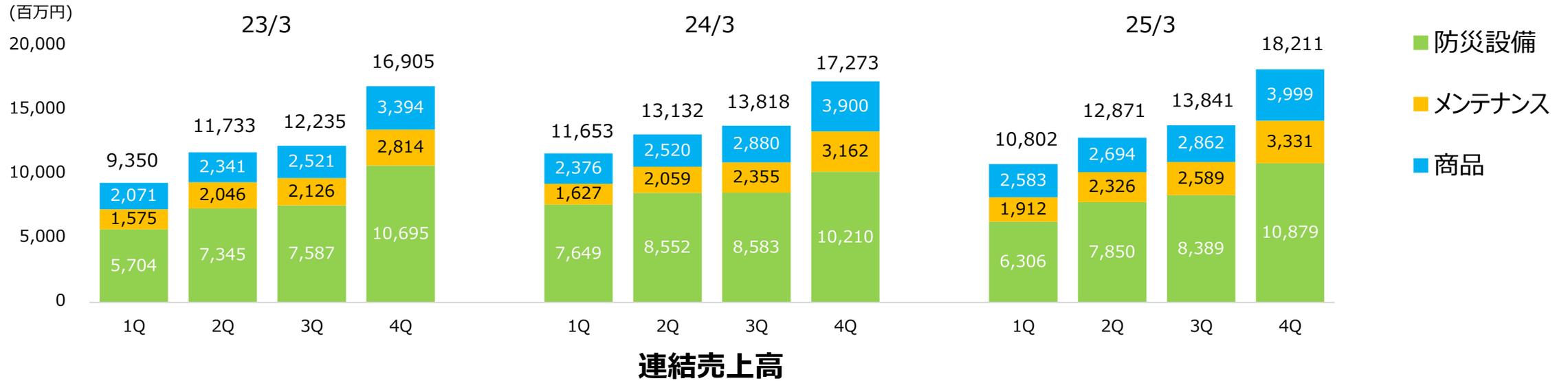
単位：百万円	前期（累計）			当期（累計）			概況
	売上高	売上 総利益	売上 総利益率	売上高	売上 総利益	売上 総利益率	
防災設備	34,996	7,493	21.4%	33,426	8,790	26.3%	大型案件の受注は引き続き旺盛であるものの、年度末までに完工を迎える大型案件が工事進捗した前期同期間に比して、当期間は着工案件が多かったこと等により減収となったが、採算性の良い工事案件への受注活動に継続して努めてきた結果増益
メンテナンス	9,204	3,484	37.9%	10,160	3,849	37.9%	改修・補修工事案件の進捗等による
商品	11,677	2,005	17.2%	12,139	2,174	17.9%	機器類の販売および小型工事案件の引き合いが増加したこと等による
合計	55,878	12,983	23.2%	55,727	14,814	26.6%	

大都市圏を中心とした大規模再開発案件、政府主導による大規模投資案件、さらには社会全般における防災意識の高まり等、需要喚起の要因もみられ、当社グループを取り巻く事業環境、ビジネスの裾野は広がっております。

引き続き、社会の変化に適応する新しい発想とテクノロジーで、次世代の防災を創造し、世の中に安心・安全を提供するとともに、環境に配慮した、より質の高い社会インフラの構築に貢献してまいります。

単位：百万円	第2四半期（累計）			通期		
	計画	前期実績	増減率	計画	前期実績	増減率
売上高	24,000	23,674	1.4%	<b>56,500</b>	55,727	1.4%
営業利益	2,250	2,200	2.3%	<b>6,200</b>	6,128	1.2%
経常利益	2,250	2,200	2.2%	<b>6,000</b>	5,817	3.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,550	1,525	1.6%	<b>4,000</b>	3,958	1.1%

# 業績の下期偏重について



# 連結貸借対照表

単位：百万円	2024/3	2025/3	対前期比	増減率
<b>資産の部</b>				
流動資産	41,426	<b>34,771</b>	△6,654	△16.1%
固定資産	12,602	<b>16,167</b>	3,564	28.3%
有形固定資産	9,230	<b>9,557</b>	326	3.5%
無形固定資産	736	<b>585</b>	△150	△20.5%
投資その他の資産	2,636	<b>6,025</b>	3,388	128.6%
資産合計	54,029	<b>50,939</b>	△3,089	△5.7%
<b>負債の部</b>				
流動負債	22,414	<b>17,105</b>	△5,308	△23.7%
固定負債	4,566	<b>3,315</b>	△1,250	△27.4%
負債合計	26,981	<b>20,421</b>	△6,559	△24.3%
<b>純資産の部</b>				
株主資本	21,058	<b>24,681</b>	3,623	17.2%
資本金	700	<b>700</b>	-	-
資本剰余金	3,023	<b>3,023</b>	-	-
利益剰余金	18,223	<b>21,846</b>	3,623	19.9%
自己株式	△890	<b>△890</b>	-	-
その他の包括利益累計額	1,191	<b>952</b>	△239	△20.1%
非支配株主持分	4,798	<b>4,883</b>	85	1.8%
純資産合計	27,048	<b>30,517</b>	3,469	12.8%
負債純資産合計	54,029	<b>50,939</b>	△3,089	△5.7%

受取手形、売掛金及び契約資産の減少7,722百万円等により、資産合計は3,089百万円の減少。

支払手形、買掛金及び工事未払金の減少3,085百万円、短期借入金の減少2,711百万円等により、負債合計は6,559百万円の減少。

# 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

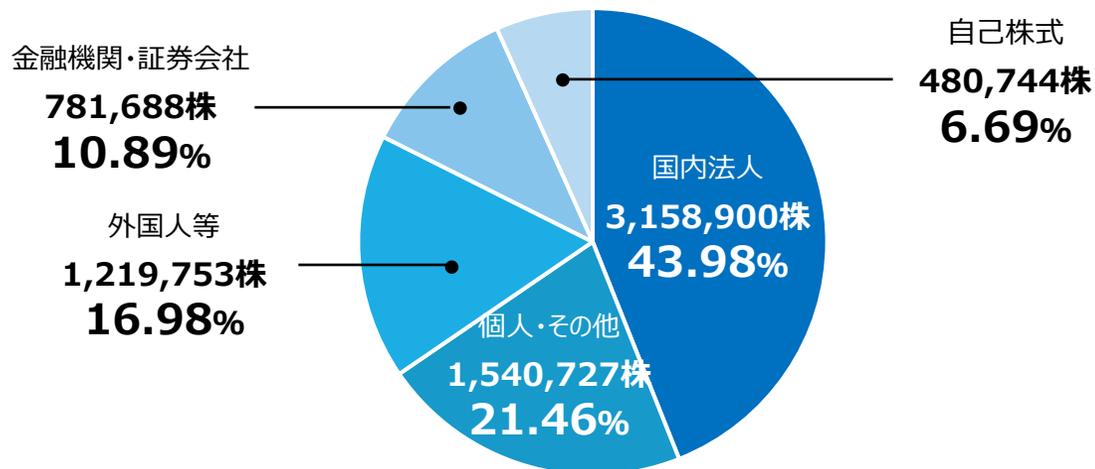
単位：百万円	2024/3	2025/3	対前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,145	<b>8,942</b>	7,797
投資活動によるキャッシュ・フロー	△330	△ <b>1,019</b>	△689
フリーキャッシュ・フロー	815	<b>7,923</b>	7,108
財務活動によるキャッシュ・フロー	76	△ <b>3,361</b>	△3,437
現金及び現金同等物の増減額	986	<b>4,509</b>	3,523
現金及び現金同等物の期首残高	4,006	<b>4,993</b>	987
現金及び現金同等物の期末残高	4,993	<b>9,502</b>	4,509

- 営業活動によるキャッシュ・フロー  
 主な収入：税金等調整前当期純利益5,745百万円、減価償却費734百万円、のれん償却額152百万円、売上債権の減少7,157百万円等  
 主な支出：仕入債務の減少3,841百万円、法人税等の支払額1,950百万円等
- 投資活動によるキャッシュ・フロー  
 主な収入：有価証券の減少181百万円等  
 主な支出：有形固定資産の取得による支出1,274百万円、無形固定資産の取得による支出30百万円等
- 財務活動によるキャッシュ・フロー  
 主な収入：長期借入による収入556百万円  
 主な支出：短期借入金の減少2,707百万円、長期借入金の返済による支出834百万円、配当金の支払額335百万円等

# 株式の状況

2025年3月31日現在

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式総数※	7,181,812株
株主数	3,710名



順位	株主名	所有株数	持株比率
1	総合警備保障株式会社	1,100,000株	16.41%
2	日本ドライケミカル取引先持株会	423,900株	6.32%
3	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	345,500株	5.15%
4	株式会社初田製作所	340,000株	5.07%
5	BNY GCM CLIENT ACCOLNT JPRD AC ISG (FE-AC)	220,583株	3.29%
6	新日本空調株式会社	192,000株	2.86%
7	沖電気工業株式会社	178,000株	2.65%
8	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	162,200株	2.42%
9	BNYM RE BNYMLB REGPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	142,800株	2.16%
10	日本ドライケミカル従業員持株会	130,300株	1.94%

※ 1.当社は自己株式480,744株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。 2.持株比率は、発行済株式総数から自己株式数を控除して計算しております。